



8 参考資料



8.1 ITUに関する情報

8.1.1 ITUの連絡先一覧

<http://www.itu.int/en/about/Pages/contact.aspx> より引用

Postal Address

International Telecommunication Union (ITU)

Place des Nations

1211 Geneva 20 Switzerland

General Enquiries

Voice: +41 22 730 5111 (ITU Switchboard)

Fax: +41 22 733 7256

Email: itumail@itu.int

Radiocommunication Bureau (BR)

Voice: +41 22 730 5560

Fax: +41 22 730 5785

Email: brmail@itu.int

Telecommunication Standardization Bureau (TSB)

Voice: +41 22 730 5852

Fax: +41 22 730 5853

Email: tsbmail@itu.int

Telecommunication Development Bureau (BDT)

Voice: +41 22 730 5435

Fax: +41 22 730 5484

Email: bdtmail@itu.int

Press Office (Media Only)

Voice: +41 22 730 6039

Fax: +41 22 730 5939

Email: pressinfo@itu.int

Languages

Email: languages@itu.int

ITU Telecom

Voice: +41 22 730 6161

Fax: +41 22 730 6444

Email: telecom@itu.int

Publication Sales

Voice: +41 22 730 6141 (English) +41 22 730 6142 (Français) +41 22 730 6143 (Español)

Fax: + 41 22 730 5194

Email: sales@itu.int

Membership Affairs

Fax: +41 22 730 6675

Email: membership@itu.int

Library and Archives

Voice: +41 22 730 6900

Fax: + 41 22 730 5326

Email: library@itu.int

Information Services

Voice: +41 22 730 5554 (Administration) +41 22 730 6666 (Service Desk)

Fax: +41 22 730 5337

Email: ServiceDesk@itu.int (TIES Technical Inquiries) webmaster@itu.int (Web Technical Questions) hostmaster@itu.int (DNS Questions)

TIES Registration

Fax: +41 22 730 6675

Email: membership@itu.int

UN and Liaison Office

ITU is a specialized agency of the United Nations and maintains a liaison office with the UN in New York. Office DC2-2524, 2 United Nations Plaza - New York, NY, 10017

E-mail: wynhoven@un.org, ursula.wynhoven@itu.int

Tel.: +1 917 214 5584

8.1.2 ITUのホームページ便利帳

【ITU の組織関連情報】

○ITU 全体像を知りたい

<http://www.itu.int/aboutitu/structure/>

○ITU 組織一般（TIES ユーザーのみ閲覧可能）

<http://www.itu.int/council/charts/index.html>

○ITU の Regional Office が知りたい

<http://www.itu.int/net/ITU-SG/regional.aspx>

○ITU メンバーへの加盟について知りたい

<http://www.itu.int/en/about/Pages/membership.aspx>

○ITU 加盟国を知りたい

<https://www.itu.int/online/mm/scripts/gensel8>

○ITU セクターメンバーを知りたい

<https://www.itu.int/online/mm/scripts/gensel11>

○TIES のアカウントを取得するためには

<http://www.itu.int/TIES/index.html>

○世界情報社会・電気通信日とは？

<http://www.itu.int/en/wtisd/Pages/about.aspx>

○ITU の歴史的ロゴを見たい

<http://www.itu.int/en/history/Pages/ITULogo.aspx>

○ITU 局長以上の役職者情報（略歴、写真、スピーチ等）を知りたい

http://www.itu.int/net/pressoffice/media_kit/index.aspx?lang=en&idx=0#.Ui69qdI71rA

○ITU 広報 問合せ先

<http://www.itu.int/net/pressoffice/contact.aspx?lang=en#.UjEiMNI73Yg>

【各部局に関する情報】

○ITU について知りたい

<http://www.itu.int/net/about/basic-texts/rules.aspx>

○ITU 会合スケジュールが知りたい

<全ミーティング>

<http://www.itu.int/events/upcomingevents.asp?lang=en> (一覧)

<http://www.itu.int/events/monthlyagenda.asp?lang=en> (カレンダー)

< ITU-SG > <http://www.itu.int/en/events/Pages/Calendar-Events.aspx?sector=ITU-SG>

< ITU-R > <http://www.itu.int/en/events/Pages/Calendar-Events.aspx?sector=ITU-R>

< ITU-T > <http://www.itu.int/en/events/Pages/Calendar-Events.aspx?sector=ITU-T>

< ITU-D > <http://www.itu.int/en/events/Pages/Calendar-Events.aspx?sector=ITU-D>

○勧告をダウンロードしたい (一部を除き無料)

< ITU-R > <http://www.itu.int/pub/R-REP/en>

< ITU-T > <http://www.itu.int/rec/T-REC/en>

【出版関係情報】

○海洋関係の義務付けられている書籍の情報が知りたい

<http://www.itu.int/pub/R-SP> (一覧)

< Ship Station 2018 > <http://www.itu.int/pub/R-SP-LM.V-2018>

< Coast Station 2017 > <http://www.itu.int/pub/R-SP-LM.IV-2017>

< Maritime Manual 2016 > <http://www.itu.int/pub/R-SP-LM.MM-2016>

○規則関係の書籍の情報が知りたい

< 憲章・条約 > <http://www.itu.int/pub/S-CONF-PLEN-2015>

< 無線通信規則 > <http://www.itu.int/pub/R-REG-RR-2016>

< 電気通信規則 > <http://www.itu.int/pub/S-CONF-WCIT-2012>

【統計関係情報】

○統計データが欲しい

<http://www.itu.int/en/ITU-D/Statistics/Pages/stat/default.aspx>

(一般的なものだけ一般公開されています。詳細のデータについては World Telecommunication/ICT Indicators Database を購入下さい)

<http://www.itu.int/pub/D-IND>

8.1.3 ITUあれこれ～初めて出張する方へ～

ITUあれこれ ～日本人職員の知恵袋～

ITU日本人職員一同

はじめに

ジュネーブのITUの会議に出席されてお困りになったことはありませんか。日本から会議に参加される方に役立つような情報をITUで働く日本人職員が皆で知恵を絞って集めました。既に御存じの情報もあるかとは思いますが、一覧できるマニュアル的なものを目指して、写真をなるべく豊富に取り入れて分かりやすく、使いやすい情報を提供することを心がけました。ジュネーブ出張のお供として少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。

1. ITUの会議に参加するまで（出国前の準備など）

1.1 レジストレーション（参加登録）

ITUが主催する会議には様々なものがあります。そのうち、ITU-R及びITU-Dの会議はフォーカルポイントと呼ばれる所属組織の連絡担当者を通じて参加登録をします。ITU-Tの会議は、その会議のウェブサイトにあるonline registration formにアクセスして自分で参加登録します。参加登録せず、いきなりITUに行っても、その場で参加登録は可能ですが、バッジの発行に時間がかかったり、フォーカルポイントへの連絡が必要になりますので、事前に参加登録しておくことをお勧めします。

なお、ITUはメンバーシップ制に基づいて運営されており、多くの会議は、メンバーとなっている団体の人しか参加できません。ただし、Focus Groupやワークショップなどは、オープンな運営をしており、メンバーでなくても参加できます。

1.2 TIESアカウントの取得

ITUの会議で用いられる文書は、ほとんど全てITUのサイトから入手可能ですが、多くのドキュメントの入手にはTIESと呼ばれるITUで管理しているシステムのアカウントが必要です。また、連絡手段に用いられる各グループのメーリングリスト加入にもTIESアカウントが必要です。一部、Focus Groupの文書などはGuest Accountでも入手可能で、そのメーリングリストにはGuest Accountでも加入可能ですが、TIESアカウントに比べると利用できる範囲がかなり制限されます。TIESアカウントはメンバーとなっている団体の人であ

れば入手可能ですので、可能な限りTIESアカウントを入手することをお勧めします。ただし、TIESアカウントをオンラインで申し込んでも、その後、ITUから申込者の所属組織（会社など）に照会の連絡があり、そこで確認を取った後にアカウントが発行されますので、発行までに数日かかる場合があります。そのため、ITUの会議に参加することが決まったら、準備のために文書を入手する必要があると思われるので、できるだけ早くTIESアカウントを入手することをお勧めします。なお、Guest Accountはオンラインで申込みと同時に入手できます。

TIESアカウントは「<http://www.itu.int/cgi-bin/htsh/tiesutils/reg/reg.screen1.html>」から、Guest Accountは「<https://www.itu.int/net/iwm/public/frmUserRegistration.aspx>」から申込みできます。

最近のITUの会議では文書のペーパーレス化が進んでおり、印刷された文書を配布しない会議がかなり増えていますので、PCなど、オンラインの文書を読む手段は必須です。

1.3 ITUのサイトから関連情報を入手

ITUのサイトには会議に関するものの他、出張者がジュネーブで過ごすために役立つと思われる生活情報もたくさん掲載されています。例えば、「<http://www.itu.int/en/ITU-T/info/Pages/resources.aspx>」「<http://www.itu.int/en/ITU-R/information/events/Pages/itugeneva.aspx>」などからたどれます。

1.4 会議関連文書のダウンロード

ほとんどのITUの会議は文書によって会議が進められるため、事前に入手し、目を通しておくことは重要です。会場でもダウンロードできますが、ネットワークが込み合ってダウンロードに時間がかかったり、PCの調子によってはダウンロードできないことも起こり得ます。また、初めて見た英文の文書やそれに関連する発言に対し、即応することが難しい場合もあります。ITUのウェブサイトから大量の文書をダウンロードするのは手間がかかりますが、FTPサイト（ifa.itu.int、TIESアカウントによりログイン）からまとめてダウンロードする方法もあります。

1.5 ホテルの予約

御自分が所属する組織にITUの会議によく参加している人がいれば、まずは、その方にホテルはどのようにして予約しているのかを確認するとよいです。手配方法は組織により様々です。例えば、社内の取りまとめの人が全社分まとめて確保する、出張者個人が会社指定の代理店に依頼する、代理店の選択を含め完全に個人で手配する（この場合は予約サイトの利用も考えられます）などです。

ITUと契約しているホテルは、会議参加者向けに割引料金を提供していますので、これも確認するとよいです。

関連情報は、「<http://www.itu.int/net4/travel/index.aspx>」にあります。

ジュネーブは観光シーズンと無関係に、大規模なイベントがある時期にはホテルの予約が非常に困難になります。また、料金もかなり高くなります。Telecom Worldと呼ばれるITU主催のワークショップ及び展示会を中心とするイベントの開催期間中は料金が通常の3倍になったケースもありました。その他、代表的なイベントとしては、高級時計の展示会で大体1月に開催されるSIHH、3月の自動車ショーなどがあります。WHOなど他の国際機関が大規模な会議を開催する時期も要注意です。そのため、キャンセル料金がわからない範囲であれば、会議参加の可能性がある場合には、出張許可が出ていなくても分かった段階で早めに予約を入れておくといいです。半年前に予約を入れておくことも決して珍しくありません。これはフライトの予約にも同じことが言えます。適当なホテルを選んでサイトにアクセスして、料金を調べてみると、状況がある程度想像できます。

ホテルは、料金、ホテルでのネット環境、ITUへのアクセスと一緒に会議に出ている人たちとの行動のしやすさ、食事、買い物などの利便性を考慮して決めるとよいでしょう。出張者がよく利用していると思われるホテルは、Hotel les Nationsのほか、Auteuil、Jade、Kipling、Royalなどのローザンヌ通り沿い（トラム通り沿い）のホテル、Montbrillantなどの駅前のホテルなどです。以前、多くの出張者に使われていたGrand Préは改装が終わり、ibis Genève Centre Nationsとして2013年3月にオープンしました。

1.6 電源アダプターなどの準備

スイスの一般の電源コンセントは230V、50Hzです。コンセントの形状はタイプJと呼ばれる3本ピンのものですが、タイプCと呼ばれる、2本ピンのいわゆるユーロプラグも差し込むことができます。日本からPCを持ち込む場合、ほとんどの

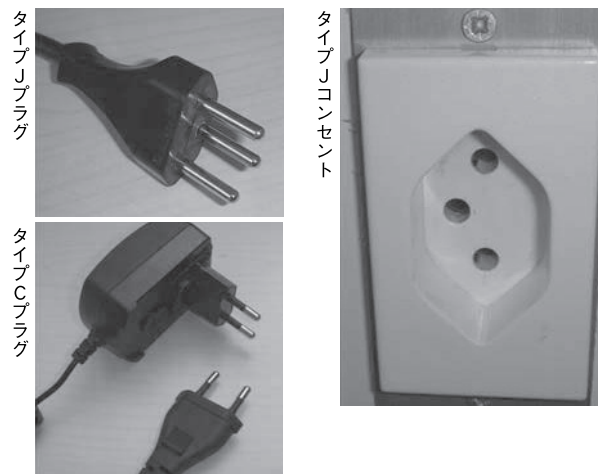


Photo 1-1. タイプJのプラグとコンセント及びタイプCのプラグ

電源アダプターは100-240Vの範囲で使用できるようになっているため、変圧器は必要なく、プラグアダプタのみで利用できるケースがほとんどだと思います。プラグアダプタは、2本ピンのタイプCを用います。

1.7 お金の準備

スイスはユーロ圏に囲まれています。スイスの通貨はスイスフランです（CHFあるいはSFRなどと表示される場合が多いが、単に数字のみで表示される場合もあります）。日本円からスイスフランへの両替は空港や街中にある銀行や両替屋などで問題なくできます。国際キャッシュカードやクレジットカードを利用して街中にあるATMからスイスフランを入手することもできます。クレジットカードはホテルのほか、レストラン、スーパーマーケットなど、広く利用できます。

ジュネーブはフランスとの国境に近く、フランス側のレストランに行ったり、買い物に行かれる方も多くいます。フランスでは通貨はユーロなので、その場合は、ユーロも用意しておくとお便利です。スイス側の銀行などではユーロも扱っています。フランス側に行ってから、ATMからユーロを入手することも可能です。フランス側でスイスフランを受け取る店やスイス側でユーロを受け取る店もかなりありますが、レートはやや不利になります。

なお、スイスやフランスはじめ、ヨーロッパでは、レストランやタクシーのチップは必須ではありません。レストランでは、お釣りの端数程度をチップとしておくケースが多いです。この点は米国とは全く異なります。米国をはじめとして高額紙幣の使用が難しい場合（お釣りがないので受取を拒否されるなど）がありますが、ジュネーブではスーパーマーケットなどでも200フラン札までの高額紙幣も比較的問題なく使用で

きます。ただし1000フラン札は避けたほうが無難です。

1.8 服装

一年を通じて、ジュネーブの気温は東京より少し低めです。会議では、ほぼ全員スーツにネクタイ（男性の場合）のフォーマルなものの他、カジュアルな服装の人が多い会議もあります。以前から出席している人に聞いておくといのですが、分からない場合は、スーツにネクタイで参加するのが無難です。

1.9 携帯電話

普段使っている携帯電話を持ち込んで国際ローミングで使う方法が多いかと思われそうですが、その他、出張期間中だけレンタルしたり、スイスでプリペイドの携帯電話かSIMカード（この場合は、適合する電話機が必要）を購入する方法もあります。

2. ジュネーブ空港に到着したら

2.1 空港からの移動手段

ジュネーブ空港（<http://www.gva.ch/en/desktopdefault.aspx>）とジュネーブ中心部は4kmほどの距離で、ITUはその途中にあります。バス又はタクシーで空港からITUまでは15-20分ほどの道のりです。

ジュネーブのバスマップはTransport Public Genève (TPG) のウェブサイト（<http://www.tpg.ch/plans/reseau-urbain>）で事前に確認することができます（2013年2月現在、英語版は準備中となっています）。また、空港のArrivalゲートを出てすぐのVisitor's Centerでも情報収集ができます。

空港からバスを使う場合、80分乗り降りができる無料チケットを空港で発券することができます。発券機は機内預け荷物受取場からArrivalゲートに向かう途中にあります。このチケットはジュネーブ空港に飛行機で到着した人が対象のため、その証明のために航空チケットの半券も同時に所持している必要があります。

各バス停は、Check-inカウンターのあるフロアと同じレベルの外にあります。5番のバスに乗ると、ITUのMontbrillantビル（レジストレーションカウンターのある建物）のそばにあるNations停留所まで15分程度、また、スイス国鉄[SBB：（ドイツ語）/CFF：（フランス語）/FFS：（イタリア語）、<http://www.sbb.ch/en/home.html>] のジュネーブ中央駅であるコルナバン（Gare Cornavin）までは25分程度で着きます（ただし、中央駅周辺は時間によって交通渋滞が

起こるため、この限りではありません）。

また、この中央駅までは空港からスイス国鉄を利用して6分ほどで行くことも可能です。ジュネーブ空港のサイト（<http://www.gva.ch/en/DesktopDefault.aspx/tabid-67/>）に空港からの移動手段について詳しく説明されています。

2.2 ジュネーブ市内移動手段

ジュネーブ市内のホテルに宿泊する場合、チェックイン時にホテルより宿泊期間中のジュネーブ市内バス無料チケットをもらうことができます（<http://www.geneve-tourisme>）。



Photo 2-1. Arrivalゲートを出てすぐのVisitor's Center



Photo 2-2. Arrivalフロアから外に出るとあるタクシー乗り場



Photo 2-3. Check-inフロアから外に出た所にある5番バス乗り場（奥に見えるのが空港の建物）

ch/en/useful-information/how-to-get-around/geneva-transport-card/). ただし、フランス側に宿泊する場合は対象外です。また通常のバスチケットは各バス停前にある券売機で購入でき、ジュネーブ市内60分間乗り降り自由のチケットで3.5スイスフラン、一日券だと10.6フラン（2013年2月現在）です。券売機は従来から使われているタイプと新しいタイプの2種類が混在しており、従来版はお釣りが出ません。有効なチケットを所有していればバスは乗り降り自由です。チケットは時々バスに乗り込んでくるチケットコントロール係に見せることになりますが、その際、有効なチケットを所持していないと罰金を支払わなければならないため、気をつけてください。

また、ジュネーブは寒冷地のため、バス停に到着しても扉が開かない場合があります。乗車時にバスの扉が開かない場合は、扉横にある赤いボタンを押してください。同様に降車時は、一つ前のバス停を発車した後に付近の赤いボタンを押

して降りる意思を示し、バス停に到着後、扉付近のポールにある赤いボタンを押してください。

3. ITUの建物のしくみ

3.1 ITUとジュネーブの主要な建物

ジュネーブはレマン湖（Lac Léman）とそれに続くローヌ川（Rhône）をはさんで右岸・左岸に分かれます。このうち、「ジュネーブ・コアントラン国際空港（Aéroport International de Genève、最寄りバス停：Aéroport、仏語発音：アエロポー）」「コルナバン駅（Gare de Genève-Cornavin、最寄りバス停：Gare Cornavin、仏語発音：ガー・コーナバン）」「国際連合ジュネーブ事務局（または国際連合欧州本部、最寄りバス停：Nations、仏語発音：ナシオン）」「ITU（UIT、最寄りバス停：UIT、仏語発音：ウ・イ・テ）」は全て左岸に集中しています。ローヌ川を越える橋は本数が限られており、朝夕の通勤時間帯には渋滞するため、ホテルを予約する場合には注意が必要です。

これらのうち、国連欧州本部とコルナバン駅は多数のバス路線が通るため、その位置を理解しておくといと思います。なお、空港からITUへは5番バスでNationsバス停で下車、駅からは8番バスでUIT又はNationsバス停、若しくは5番バスでVarembé又はNationsバス停で下車してください。

3.2 ITUの建物の構造

ITUの建物は国連欧州本部から近い順に「モンブリアン（Montbrillant）」「バロンベ（Varembé）」「タワー（Tower）」



Photo 2-4. バス券売機（新型）



Photo 2-5. バス券売機（従来版）

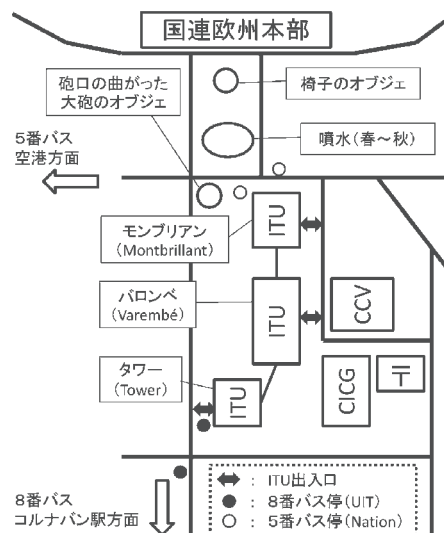


Fig.1. ITU付近略地図



Photo 3-1. 国連欧州本部

の三つに分かれています。タワーには事務総局長をはじめ事務総局の職員と開発局の職員が勤務しています。パロンベは無線通信局、モンブリアンは標準化局の職員が中心です。建物の出入り口は、各建物の0階（日本の1階相当）にあります。このうちモンブリアンとパロンベ出入口はパロンベ通り（最寄りバス停はNations）、タワー出入口はジュセッペ・モッタ通り（最寄りバス停：UIT）側にあります。このうち、パロンベ出入口は無人・カードリーダー式のため会議参加バッジ取得後のみ利用可能であり、夜間休日はタワー出入口のみ開いております。なお、会議参加バッジの取得前でも、訪問先の職員名を告げ、パスポートを預けることで一時入館バッジを得てITUに入館することもできます。

各建物は、「モンブリアン1階（日本の2階相当）とパロンベ0階（日本の1階に相当。地上階）」「パロンベ（マイナス）1階（日本の地下1階に相当）とタワー（マイナス）1階（日本の地下1階に相当）」がつながっており、外に出ることなく建物間を移動することが可能です。

3.3 ITU内の会議室

ITU内の会議場は、三つの建物の地下2階から地上4階



Photo 3-2. ITUモンブリアン（左）とパロンベ（右）ビル

（日本の5階に相当）まで各所に分散配置されています。このうちタワー地下2階のA、Popov（IHB会議室）、C会議室、モンブリアン1階（日本の2階に相当）のH、K、L、M会議室、パロンベ1階のE会議室、3階のG会議室が国際会議ではよく使われます。一般的に、会議参加バッジの受取時にITU館内案内図が配布されますが、出入口の守衛に言うてもできます。また、ITUホームページからダウンロードすることも可能です（<http://www.itu.int/ITU-T/info/files/itu-plan.pdf>）。トイレは各フロアにありますが、会議室H、K、L、M会議室があるモンブリアン1階に限り、上下のフロアに移動する必要があります。



Photo 3-3. ITUタワービル



Photo 3-4. ITUタワー地下2階の会議室のあるフロア

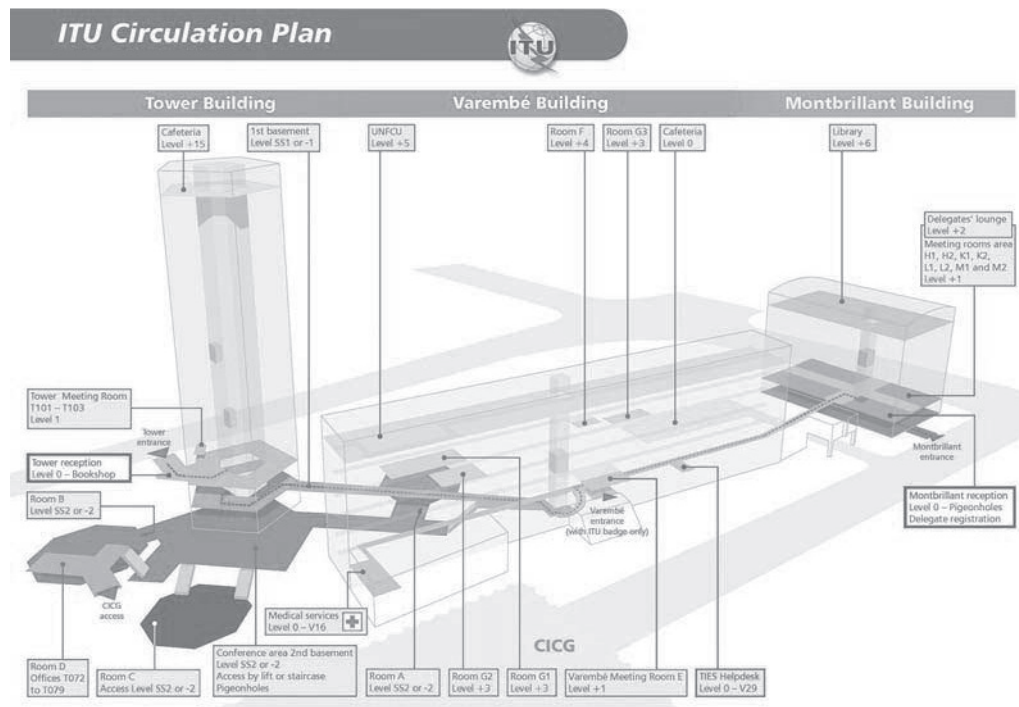


Fig. 2. ITU内案内図

3.4 ITU外の会議室（CICG、CCV）

会議が重なったり、規模が大きかったりする場合には、ITUに隣接するCICG (Centre International de Conférences Genève)、CCVの会議場を使用することがあります。これらの会議場は、パロンベ出入口からのアクセスが容易で、パロンベ出入口から見て右側の建物がCICG、左側の建物がCCVです。また、会議の規模が極めて大きい場合にはILO（仏語略称：BIT）の会議室を使用することがあり、この場合はUITバス停から8番バスでILO（最寄りバス停：BIT）に移動する必要があります。

3.5 ITU内の食堂

ITU内にはタワー15階（日本の16階に相当）とモンブリア

ン0階（日本の1階に相当、地上階）の2箇所にカフェテリアがあり、タワー・カフェテリアが朝食から昼食、モンブリアン・カフェテリアが朝食から夕食までを提供しています。

食事はセルフサービスの事後会計式で、「ホットミール（一皿にメイン1品＋副食2品）」「各種パン、サンドイッチ」「量り売りのサラダバー」「デザート」「ソフトドリンク、コーヒー（エスプレッソマシン）」「ワイン（!）」等があります（ただし、タワーカフェテリアのエスプレッソマシンのみ、先に会計で専用コインを買い、そのコインを機械に投入する事前会計式）。価格は、ホットミールがメインの種類に応じて10～16フラン程度、サンドイッチが5～7フラン程度、コーヒーが2.1フランで、サラダバーについては会計時にはかりに載せ、重さに応じて料金を支払います。両カフェテリアのメニュー



Photo 3-5. パロンベ出入口から見たCICG（右）とCCV（左）



Photo 3-6. ITUタワー・カフェテリア



Photo 3-7. モンブリアン・カフェテリア



Photo 3-8. レジ脇のはかり（サラダ等の皿ごと載せて重さを量る）

はほぼ同じですので、レマン湖を含めたジュネーブ全域を一望できるタワー・カフェテリアか、屋外のオープンカフェスペースがあるモンブリアン・カフェテリアか、各自の好みで選びいただければと思います。

3.6 ITU内でコーヒーが買える所

長時間の会議に欠かせないコーヒーは、2箇所あるカフェテリア（エスプレッソマシン）で買うことができます。このうちタワー・カフェテリアに限り、事前に専用コインを買っておくことで、営業時間外でもエスプレッソマシンでコーヒーを入れることができます。

カフェテリアが営業時間外の場合等には、パロンベ地下1階、タワー地下2階、モンブリアン0階にあるコーヒーの自動販売機で購入することもできます（1フラン）。これら自動販売機はおつりが出ますが、スイスフランのコインのみ使用可能ですので御注意ください。また、タワーの地下2階には清涼飲料水・お茶・お菓子の自動販売機もあります。



Photo 3-9. タワー地下2階の自動販売機



Photo 3-10. タワー・カフェテリアのコーヒーマシン（左右に事前購入した専用コイン投入口）

4. ITUの建物に到着～会議に出席

4.1 まずはレジストレーションカウンターでバッジを入手

ITUへの入館には入館バッジが必要です。会議初日は少し早めにお越しになり出席者登録を行い、入館バッジの発行を受けてください。レジストレーションカウンターはPlace des Nationsから程近いITU Montbrillant（モンブリアン）ビルに入ってすぐの所にあります。

入館バッジを受け取ったら、それをゲートにかざし入館してください。



Photo 4-1. ITU Montbrillant（モンブリアン）ビル



Photo 4-2. レジストレーションカウンター

4.2 自分が出席する会議室を探す

ホームページよりFig.3のように出席参加予定の会議と、その会議場を見つけてます。

またITU建物内のそこここに当日開催予定会議の場所、時間案内が表示されていますので、そちらをご参照ください。

目的の会議場（Fig.3の例ではTowerビルディングのA会議場）への行き方はITU建物見取図「<http://www.itu.int/aboutitu/itu-plan.pdf>」を御参照ください。

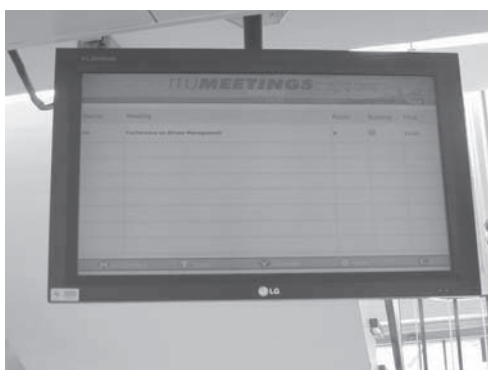


Photo 4-3. 当日開催予定会議の場所、時間案内

4.3 ITU内のIT環境

(1) 無線LAN

無線LAN（ITUwifi）が御使用になれます。パスコードは会議を担当するスタッフ若しくはITサービスデスク（Verambé（バランベ）ビル1階）にお問い合わせください。

(2) コピー機、プリンター

会議場近辺に用意されています。コピー機は御自由に御使用いただけます。持ち込みのPCへの目的のプリンターの設



Photo 4-4. コピー機、プリンター



Photo 4-5. プリンターの設定情報

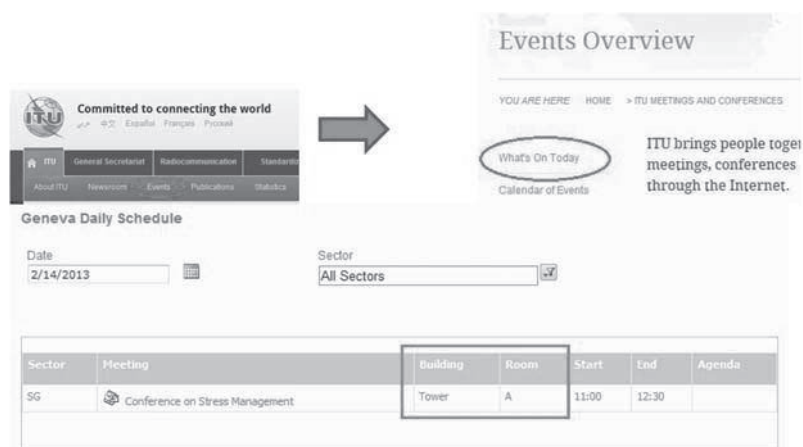


Fig.3. 参加予定の会議室の探し方

定は、ステッカーに表示の情報に従って行ってください。また最下段のメールアドレスは“eprint”というサービスです。印刷を御希望のファイルをメールに添付し、このアドレス宛てに送るだけでプリントされます。

4.4 会議中の食事や買い物

食事については、ITU内のカフェテリアのほか、近隣の国際機関（UN、UNHCR、WIPOなど）のカフェテリアにもITUの入館バッジを提示し入ることができます。日用品の買い物には、COOPがお隣りUNHCR（国連高等弁務官事務所）の裏手、ITU Montbrillant（モンブリアン）ビルより徒



Photo 4-9. ITUタワー入口を入ってすぐの出版物記念品販売コーナー



Photo 4-6. UNHCR外観



Photo 4-7. UNHCR裏手のCOOP



Photo 4-8. UNHCR横のガソリンスタンド付随のmigrolin



Photo 4-10. 国連欧州本部内のBookshop（ポート40）



Photo 4-11. S.A.F.I., (ポート1)

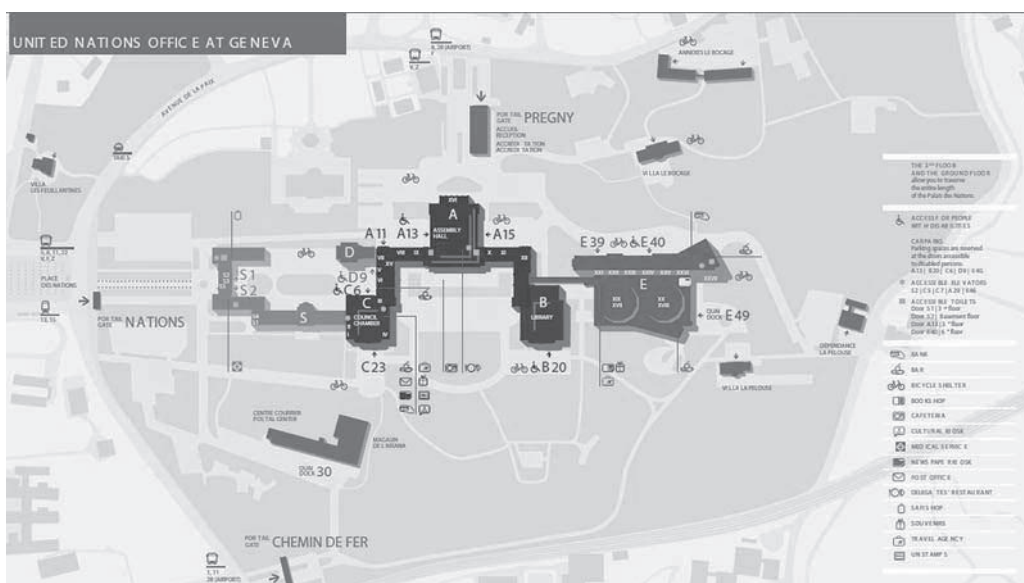


Photo 4-12. 国連欧州本部マップ

歩約5分の所にあります。会議は日曜にあることもあります。日曜の昼は、ITUの近くにあるプール (Piscine de Varembe, Avenue Giuseppe-Motta 46) のカフェテリアで昼食が取れる以外は近くには開いているレストランもなく、COOPでサンドイッチを買うこともできません。コルナバン駅前などでサンドイッチを買うなどして昼食を事前に用意されることをお勧めします。最悪の場合、ITU内にある自動販売機 (Montbrillantビル0階) やUNHCRの横にあるガソリンスタンドに付随しているmigrolino (67 rue de Monbrillant) でスナックを買うことができます。

4.5 その他

Towerビルの1階にITUの出版物や記念品 (お土産として使えます) を販売するコーナーがあります。この他、土産は国連欧州本部内のポート40にあるBookshopで国連グッズ

を、少し一般的なスイスものはポート1にある売店SAFI (月曜～金曜、12時～18時半) で購入することができます。

5. その他

5.1 具合が悪くなったら

ジュネーブは全体的に日本と比べて乾燥しており、夏は、日本よりも早い6月末の夏至の頃から7月にかけてとても蒸し暑くなることもあるものの、その期間は日本と比べて短く、時には、夏であっても日陰に入ると肌寒く感じ、特に朝晩は長袖や上着が必要になることもあります。また一方で、冬は気温が低く、時には大雪が降ることもあります。したがって、時期によっては日本とジュネーブでかなり気温差があり、日本からの出張者の方の中には気候の違いで体調を崩したりする方もおられます。



Photo 5-1. 薬局：Pharmacie



Photo 5-2. Medical Service

ジュネーブ出張中に体調を崩して、薬や受診が必要な場合、以下のような方法があります。

(1) 薬局 (Pharmacie)

薬を購入したい場合には、日本同様、薬局で薬を購入することができます（もちろん、日本と同じ薬は手に入りません）。ITUから最寄りの薬局は、以下のとおりで、平日は8：00-18：45、土曜日は8：00-17：00に開いています（2013年2月現在）。

Pharmacie Populaire Varembe

Rue de Montbrillant 88

1202 Genève (GE)

また、上記以外にも、街中やショッピングセンターの中などでPharmacieや緑の十字マークのサインを目印に薬局を見つけることができます。

(2) ITU内のMedical Service

当日の会議で病院に行く時間がない場合などは、ITUのVarembeビルの地上階（0階）、一番ITU Tower寄りの部屋（V16）にMedical Serviceがあります。開業時間は、平日の8：45-12：30、14：00-17：00です。

ただし、看護婦が常駐しているだけなので、当座をしのぐためのその場で飲む市販の薬を数錠もらうことはできますが、医者が常駐していないため、処方箋など、薬を処方してもらうことはできません。

(3) 救急病院

ジュネーブは、ホームドクター制のため、通常、開業医は自分担当の患者しか診てくれませんし、予約が当日取れることもまれです。したがって、出張中にジュネーブで病院に行

く場合、救急病院に行くことになります。ジュネーブ市内には、以下のような24時間対応の病院があり、受付順で受診が可能です。ただし、かなり長時間待たされます（病院を出るまでに6時間近くかかることもあります）。

Hôpital Cantonal

Rue Gabrielle-Perret-Gentil 4

1211 Geneva 14

Tel. : 022 372 33 11 / 022 382 33 11

Hôpital de la Tour

Av. Jean-Daniel Maillard, 3

1217 Meyrin

Tel. : 022 719 61 11

Geneva Emergency Services（救急車を呼びたい時）

Tel. : 144

その他、24時間開いているわけではありませんが、受付順で受診可能な病院もあります（昼間の時間であれば、こちらの方が早く診てもらえると思います）。

Centre Médical des Grangettes SA（Urgence）

chemin des Grangettes 7, 1224 Chêne-Bougeries

Tel. : +41 22 305 0111

<http://www.grangettes.ch/Emergencies.html>

ITU内の会議室は空調が完備しており、夏はクーラー、冬はヒーターが入るため、問題ないと思いますが、会議出席中は体調管理も重要ですので、買物や観光などで近隣に足を延ばされる際には、天気予報で十分に気温などを確認してから

Tab. 1. 遅くまで営業しているスーパー

	住所	電話番号	営業時間
Migros M Genève - Cointrin Aéroport (空港内のMigros)	Route de l'Aéroport 25 1215 Genève (GE)	—	毎日8:00-21:00
Carrefour Market FERNEY Voltaire (フランス領のカルフル)	33 AVENUE VOLTAIRE 01210 FERNEY Voltaire	04 50 40 61 23	月～土：8:30- 19:30 日：9:00-12:30
Carrefour Ferney Voltaire (フランス領のカルフル)	CC La Poterie - 6 Chemin Brunette 01210 FERNEY VOLTAIRE	04 50 40 85 26	月～土：8:30- 21:00 日曜休み

お出かけください（ジュネーブからバスで1時間半ほどの、Mont Blancを眺められるChamonix（フランス）のAiguille du midi展望台（標高3,842m）は、真夏であってもとても寒いです）。

5.2 注意すべきこと（日本との違い）

(1) 治安

ジュネーブの治安は、日本と比べるとかなり悪く、ここ数年更に悪化傾向にあります。外出中はすりやひったくり、偽警官などには常に十分に注意して、持ち物からは目を離さない、大金は持ち歩かないよう御注意ください。なお、万が一被害に遭ってしまった場合、警察の電話番号は117です。

治安状況については、在ジュネーブ出張駐在官事務所のホームページなどにも注意喚起されていますので、御参照ください。

Consulat du Japon à Genève

82, rue de Lausanne - 1202 Genève, Suisse

Tel : +41- (0) 22-716-99-00

Fax : +41- (0) 22-716-99-01

http://www.geneve.ch.emb-japan.go.jp/index_j.htm

（業務時間：平日09：00-12：00、14：00-17：00

（日本の祝日も休館になることがあります）

(2) 物価

ジュネーブは物価が高いです。レストランで毎日食事をしていると、ランチでも20CHF以上することも珍しくなく、負担に感じられる方も多いかもしれません。マクドナルドなどのファーストフード店ですら日本の何倍もの値段となります

ので、食費などを節約したければ、日本からカップラーメンなどを持参するのも一案です。

(3) お店の営業時間

ジュネーブでは、日本と異なり、遅くまで開いているお店はほとんどありません。平日でも、コルナバン駅の売店やTabaccoショップなどのコンビニ的なところを除き、18：00～19：30には閉店しますし、日曜・祝日はほぼ全てのお店が閉まり、買い物をすることはできません（木曜日は遅い時間（21時頃）まで営業しているところもあります）。

比較的遅くまで開いているスーパーは、Tab.1の通りです。

(4) 夏時間

3月末の日曜から10月末の日曜までは夏時間のため、その期間中に出張し、電車やバスなどで移動する場合には、時計をずらすのを忘れないよう注意してください。

6. おわりに

初めての試みのため、いろいろと至らぬ点が多かったかと思えます。こんな分野も書いてほしかったということなどありましたら、御指摘ください。海外出張ではどんなに準備していても不測の事態は生じるものです。そういうときは、ITUの我々のオフィスをお訪ねいただけたらと思います。各職員の専門は標準関係：太田、水野、無線関係：坂本、小泉、開発関係：杉本、コンピュータ関係：福室です。

ITUでの皆様の会議が成功し、充実した海外出張となることを祈念致します。



8.2 世界情報社会・電気通信日（5月17日）

8.2.1 世界情報社会・電気通信日 創設の経緯（5月17日）

出典：国際電信電話 第17巻 第6号 昭和44年6月1日発行「付録」より

世界電気通信の日を迎えて ＜World Telecommunications Day＞

国際電気通信連合（ITU）事務総局の提唱により、ITU 加盟諸国は、今年から毎年5月17日を世界電気通信の日と定めることとなった。これは、今日の ITU の基礎となった最初の万国電信条約がパリで署名された日を記念して設けられるもので、この日のため毎年テーマが選ばれる。この際、ITU 事務総局が準備した資料をもとに、制定の経緯および今年のテーマである「ITU」について若干ご紹介したい。

* 制定の経緯 *

昨年10月アルゼンティンのマル・デル・プラタで開かれた、ITU 国際電信電話諮問委員会（CCITT）総会の開会式における演説の中で、ミリ事務総局長が初めてこの日を設ける提案を行った。電気通信関係者ばかりでなく、広く世界の人々にも国際協力の重要性和 ITU の役割を理解してもらうことをねらったものである。この提案は各方面から暖かく迎えられた。

その後 ITU 事務総局は、毎年テーマを定めることも含めて各国に回章で意見を求めたところ、多くの国から積極的な回答が寄せられた。これに応じて、ITU 事務総局は、この日に寄せる事務総局長のメッセージ、ITU の活動を紹介する写真と新聞資料、世界電気通信の日のポスターなどを準備した。我が国では ITU 送付の資料を活用し、関係機関を通じ全国にポスター・資料等を配布して、この日の周知をはかる一方、新聞資料の発表、通信博物館における記念行事等によりこの日を祝った。

* ミリ事務総局長メッセージ *

“世界電気通信の日”制定の意義は、以下のミリ事務総局長メッセージの中によく説明されている。

「最初の万国電信条約が20カ国の全権委員によって署名されたのは、104年前の今日、すなわち1865年5月17日（慶応元年）のことです。この政府間協定こそ、電信路が国境を越えて世界に延びることを可能にしたのであり、その後いくばくもなくして、どんなに離れた国々の間でも通信ができるようになりました。この万国電信条約の署名によって創設された万国電信連合が、今日の国際電気通信連合の前身となったのであります。

連合の歴史は、まさしく電気通信の実用化のめざましい発展の歴史であり、それは同時に、20カ国に始まり今日の135の連合員が参加している国際協力の努力の歴史でもあります。

今日、私たちはラジオのスイッチを入れるといろいろな国々の番組が流れてくることに別に驚きを感じませんし、テレビ網のある国々では、宇宙空間から送られてくる映像が画面に映し出されるのを見ても驚く者はありません。同様に、地球の裏側にいる人々と電話で話をするのもごく普通のことになっています。海上の船舶や飛行中の航空機はもちろん、宇宙空間を飛ぶ有人衛星でさえ、地上と連絡を取ることができま





す。

無線通信路や海底、地下および地上ケーブルは、地球をめぐるひとつの精巧な通信網を織り成し、その一部は今日では星にまで届いています。

しかし、これら有線や無線の通信連絡は私たちの日常生活の一部に溶け込んでいますので、私たちはこれらの通信連絡を欠いた生活を想像することはできません。また、その数や種類がたくさんあるにもかかわらず、これらが相互に競合し合うなど考えることもないのです。

このめざましい功績は、私が先ほど述べたように、連合加盟諸国間の協力のたまものです。この国際的協力により、すべての電気通信業務の遂行を可能にする国際規則の制定、機器の標準化、世界計画および地域計画の作成、ならびに国連開発計画(UNDP)のわく内での新しい国、または発展の途上にある国に対する直接援助をみることができたのです。

今や原始と宇宙の時代に入り、そこには巨大な技術的可能性があると同時に、それを調整する必要は差し迫ったものがあります。世界電気通信の日を創設する機は熟したものと私たちは考えました。

最初の万国電信条約を記念して毎年祝うこの電気通信の日が、最新の電気通信の大事業に参加しているすべての人々の共通の努力を周知する良い機会となることを希望します。」

ITUの歴史

今日われわれが知っているテレックス、テレビ放送、宇宙通信というようなもっとも新しい電気通信も、文明のあけぼのとともに始まった人類の長年の努力の成果である。なかでも、19 世紀前半における電信の発明は、文明を全く新しい段階に導いた。S. モールスの名とともに知られている有線電信がアメリカで始めて公衆通信に使われたのは、1844 年で、その 4 年後にはヨーロッパのように国境が相互に接している地域では、ただちに国境が障害になってしまい、機器、運用方法および料金徴収に関する国家間の協定がなければ、文明の利器も、国内でしか通用しないことがわかった。

1840 年代のフランスとバーデン大公国との国境にあるストラスブルグの共同電報局では、次のような状況であった。たとえば、フランス側の局員は、数百キロ離れたパリから電線を通して光の速度で伝送されてきた電報を受信すると、手で特別の用紙に書き写し、それをテーブルの向かい側にいるドイツ側の局員に手渡す。すると、その局員はそれをドイツ語に訳し、宛先に再伝送する。数百キロを送信するよりも国境を越える作業の方が時間がかかったのである。

2 国の電信網を接続することを目的とした最初の条約は、1849 年 10 月プロシアとオーストリアとの間で調印され、これを中心に中・東部ヨーロッパ諸国による「独逸電信連合」が翌 1850 年に結成された。また、この連合の成功に刺激されて、1855 年にはフランスを中心にもうひとつ「西ヨーロッパ電信連合」が生まれた。その後、2つの連合の存在に不都合を感じたトルコをも含むヨーロッパ地域 20 カ国の政府は、フランスの招請により、統一した国際電信制度をつくる目的で、1865 年パリに代表を送り、同年 5 月 17 日最初の万国電信条約に調印した。この条約の附属電信規則によってモールス電信機が国際通信に採用され、ヨーロッパの大部分に統一料金が適用されることになる。

こうして創設された万国電信連合は、人類のための共通の努力を示すものとして、また、それ以後の国際協力機関の先駆者として、すべての人々に記念されるべきであろう。同連合は 1868 年ベルンに事務局を



設け、わずか 3 人の職員ではあったが、事務局をもった国際機関というまったく新しい国際協力のあり方をつくり出したものとして注目された。

1890 年代に至って、電気通信史上最も偉大な革命となった無線通信が発明され、従来、有線ではできなかった海上の船舶との通信が可能となった。しかし、同時に新たな国際的規制が必要となった。1902 年にプロシアのハインリッヒ皇太子は、アメリカ訪問の帰路大西洋上で、ルーズヴェルト大統領にお礼の電報を打とうとしたが、海岸局と船舶局で使用する無線機器の種類および製造国が違うという理由で拒否された。この事件もひとつの動機となって、1906 年ベルリンで最初の国際無線電信条約が調印され、附属無線通信規則も採択された。ここにいわゆる国際無線電信連合が誕生したのである。このとき、船舶局と海岸局間の相互通信が義務づけられ、SOS が遭難信号に採用された。しかし、すべてが解決されたわけではなかった。たとえば 1912 年有名なタイタニック号沈没の際、附近を航行中の船があったが、通信士が夜間の執務時間外であったため、遭難信号を聴くことができなかったのである。それでも、徐々にではあるが、問題は解決されていった。

1920 年代に入って放送が登場し、無線の使用が普及して懇親の問題がでてきた。1927 年ワシントン無線会議で初めて各業務への周波数の分配が行われた。

電気通信の発達と複雑化に対処するため、技術、運用、料金などを研究する各種国際諮問委員会が発足した。

1923 年には、国際電話諮問委員会、1926 年には国際電信諮問委員会（両者は 1956 年に合併して国際電信電話諮問委員会となった）、1927 年には国際無線通信諮問委員会が設立されている。

1932 年マドリッド条約によって万国電信連合と、国際無線電信連合は合併して、国際電気通信連合が発足した。この 1930 年代にテレビとレーダーが出現している。

第2次大戦後、米国のアトランティック・シティにおいて開かれた 1947 年国際電気通信全権委員会議は、条約の内容を一新し、ITUは国際連合と連携する専門機関として新発足した。その後、1952 年ブエノスアイレス条約、1959 年ジュネーヴ条約を経て、現行の条約は 1965 年モントルー（スイス）で開かれた全権委員会議作成のものである。

* 今日のITU *

ITUは現在 135 の連合員からなり、その組織は条約に詳しく規定されている。

ITUの目的は、すべての種類の電気通信の改善および合理的利用のため国際協力を維持、増進すること、および電気通信の技術的手段の発達とその最も能率的な運用を促進することにある。このためITUは、周波数スペクトルの分配と周波数割当ての登録、良好な通信サービスと健全なかつ独立の経理を勘案した低料金設定の促進、低開発国に対する技術協力活動、通信による人命安全の確保、電気通信の研究、規則の制定、勧告の作成、情報の収集と発表などを行っている。

最近のITUの主な活動は次のとおりである。

(1) 宇宙通信

宇宙通信には特有の問題がたくさんある。たとえば、故障により発しできなくなった衛星は宇宙空間の単なる小石にすぎないし、逆に発信の止まらなくなった衛星は他の通信の妨害となる。また、宇宙からの発信は

地球上の広範な地域をカバーするため、混信には特に注意する必要があるとか、重さが制限されるため発信電力が弱く、地上の受信局は特別に保護されなければならないとか、また、通信距離が長いと電波の到達に要する時間も技術的に無視できないなど数えればきりが無い。

ITUは、1959年宇宙研究に必要な周波数帯の割当てを行い、また、宇宙通信に関する各種の技術的問題を検討するため、特別の研究委員会を作った。1963年の宇宙無線通信会議では、各種宇宙業務用に多くの周波数帯が割り当てられ、そのほか、遭難手続、放送衛星、ITUへの情報提供などに関する決議および勧告が採択された。

研究委員会は、その後も宇宙通信に関する技術的諸問題を研究しており、通信衛星の静止軌道位置の使用方法を研究する国際作業班もつくられている。

宇宙通信技術の迅速な進歩に応じるため、1971年には第2回宇宙無線通信会議が予定されている。

(2)世界電気通信網計画

世界の電話は、15年前の1954年には9千万に過ぎなかったが、今日では2億3千万を越えており、今世紀末には6億に達するものと見られている。

電話の増加と並行して、国際通話の利用も急速に伸びてきた。ITUは、電気通信プラン委員会を設けて、国際電気通信網の一般計画作成にあたっている。プラン委員会には、世界プラン委員会と4つの地域プラン委員会(アフリカ、ラテン・アメリカ、アジア・大洋州、ヨーロッパ・地中海)がある。

1967年メキシコで開かれた世界プラン委員会は、1966年の通信実績と1970年および1975年の通信需要予測をもとに、世界的規模の電気通信相互接続計画を作成した。地域相互間の接続は、面として海底ケーブルと衛星によるものとして計画されている。

この計画は、番号計画(世界の電話が自動または半自動化される際に使用する国番号が割り当てられており、日本は81)およびルーティング計画(3種類の中継局による国際中継交換の体系)により補充される。

(3)技術協力

一国の発展は電気通信と切り離して考えることはできない。距離が障害でなくなった今日の世界諸国民は、ますます能率的な電気通信網に依存するようになり、多くの国では、通信網の発達が必要に追いつけない状態である。世界電気通信網の円滑な運営には、さらに多くの設備と技術者が必要とされている。

この問題を解決するため、ITUはUNDPと協力して、開発の遅れている国々に対し、電気通信訓練センター設立、現地での調査研究や職員の要請を任務とする専門家の派遣、フェローシップ供与、セミナーの開催、訓練・測定・展示用機器の提供など多くの事業を行ってきた。

1968年中に、ITUは専門家派遣231名、フェローシップ供与274名をフック無560万ドルの技術援助を行った。派遣された専門家の3分の1は、援助受入国政府の顧問として、行政・組織・技術問題の解決に助力し、60パーセントは訓練関係に携わっている。なお、現在日本からはアジア、中東、中米等の諸国に対し、9名の専門家を派遣している。また、ITUが1968年中に取り扱った23の長期事業のうち、20は電気通信訓練センターである。

(郵政省電気通信監理官室)



その後、世界情報社会サミットフェーズ 2(2005 年 11 月 チュニス)のチュニスアジェンダで 5 月 17 日を「世界情報社会の日」とすることが宣言され、更に、その後の国連総会(2006 年 3 月)でも採択された。それらを受けて、2006 年 11 月に開催された ITU 全権委員会(トルコ アンタルヤ)において、同日を「World Telecommunication and Information Society Day(世界情報社会・電気通信日)」として制定し、毎年祝賀することが決議された。



8.2.2 テーマ一覧

テーマ

回	年	テーマ
1	1969	The International Telecommunication
2	1970	Telecommunication and Education
3	1971	Space and Telecommunication
4	1972	The World Telecommunication
5	1973	International Co-Operation in Telecommunication
6	1974	Telecommunications and Transport
7	1975	Meteorology and Telecommunications
8	1976	Telecommunication and Mass Media
9	1977	Telecommunication and Development
10	1978	Radiocommunications
11	1979	Telecommunications for all
12	1980	Rural Telecommunications
13	1981	Telecommunications and Health
14	1982	International Co-Operation
15	1983	One World, One Network
16	1984	Telecommunications: Expanding Horizons
17	1985	Against Stride towards Universality
18	1986	Partners in Progress
19	1987	Telecommunications in the Service of Nations
20	1988	The Transfer of Technological Know-How in the Age of Electronics
21	1989	International Co-Operation is also the Future
22	1990	Telecommunications and Industrial Development
23	1991	Telecommunications and the Safety of Human Life
24	1992	Telecommunications and Space: New Horizons
25	1993	Telecommunications and Human Development
26	1994	Telecommunications and Culture
27	1995	Telecommunications and environment
28	1996	Telecommunications and Sport
29	1997	Telecommunications and Human Support
30	1998	Trade in Telecommunications
31	1999	Electronic Commerce
32	2000	Mobile Communications
33	2001	The Internet: Challenges, opportunities and prospects
34	2002	ICT for all: empowering people to cross the digital divide
35	2003	Helping all of the world's people to communicate
36	2004	ICT: Leading the way to sustainable development
37	2005	Creating an equitable Information Society: Time for Action
38	2006	Promoting Global Cybersecurity
39	2007	Connecting the Young: the opportunities of ICT
40	2008	Connecting Persons with Disabilities : ICT Opportunities for All
41	2009	Protecting children in cyberspace
42	2010	Better city, better life with ICTs
43	2011	Better Life in Rural Communities with ICTs
44	2012	Women and Girls in ICT
45	2013	ICTs and Improving Road Safety
46	2014	Broadband for Sustainable Development
47	2015	Telecommunications and ICTs: Drivers of innovation
48	2016	ICT entrepreneurship for social impact
49	2017	Big Data for Big Impact
50	2018	Innovation for smarter digital development

8.2.3 世界情報社会・電気通信日記念式典（2018年）

「第50回世界情報社会・電気通信日のつどい」開催

一般財団法人日本ITU協会 企画部

2018年5月17日、当協会主催の「第50回世界情報社会・電気通信日のつどい」が京王プラザホテル（新宿区西新宿）にて開催され、日本政府、在日外国大使館、情報通信放送業界等から約300名の関係者が参集した。

5月17日は、1865年に国際電気通信連合（ITU）の基礎となった万国電信条約が署名された日にあたる。毎年この日は、「世界情報社会・電気通信日（World Telecommunication and Information Society Day）」と銘打ち、ITUや各国が記念日として祝うことにあわせ、我が国では日本ITU協会が式典を開催している。今年で46回目となる長い伝統のある賞は、国際標準化や国際協力分野において広く情報通信・放送分野で活躍してこられた方々に、その功績を称え、総務大臣賞と日本ITU協会賞が贈呈される。

式典来賓に坂井総務副大臣、外務省塚田国際協力局参事官から祝辞をいただき、日本ITU協会賞選考委員会関委員長から、選考についての報告があった。

式典では、総務大臣賞及び日本ITU協会賞の贈呈式が行われ、総務大臣賞は井上友二氏に、日本ITU協会賞特

別賞はマハビール・ブン氏に贈呈された。

今年は、例年の「功績賞」「奨励賞」の中に、国連及びITUが掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」の実現に向けてSMEの寄与と期待に着目し、今後世界的な社会貢献や社会課題解決のための貢献や寄与が大いに期待される団体にも贈呈することとし、功績賞14件、奨励賞1企業と15件17名の方に贈呈を行い、その功績が称えられた。

厳かな贈呈式の後には記念講演が行われ、国立研究開発法人情報通信研究機構 理事長の徳田英幸氏により「IoT・AIの未来とセキュリティの課題～これからのICT技術をどう進化させるか～」と題して講演いただいた。

今年も総務大臣賞並びに日本ITU協会賞を贈呈することができたことに、心から喜びを感じている。受賞者の皆様の今後益々のご活躍とご健勝をお祈りするとともに、推薦機関をはじめ、本式典を支えていただいている各方面の方々に御礼申し上げたい。なお、式典の様子は、近々当協会のウェブサイトに掲載するので、是非ご覧いただきたい。
<https://www.ituaj.jp/>



写真1. 記念撮影



■写真2. 総務大臣賞受賞 井上友二氏



■写真3. 日本ITU協会賞 特別賞受賞 マハビール・ブン氏



■写真4. 日本ITU協会賞 功績賞受賞の皆様



■写真5. 日本ITU協会賞 奨励賞受賞の皆様

■総務大臣賞、第46回日本ITU協会賞 受賞者一覧
(五十音順・敬称略)

氏名	所属団体名
【総務大臣賞】	
井上 友二	トヨタIT開発センター
【特別賞】	
マハビール・ブン	Nepal Wireless, E-Networking Research & Development (ENRD)
【功績賞】	
今川 眞治	平岩建設株式会社
岩田 秀行	日本電信電話株式会社
小川 博世	国立研究開発法人情報通信研究機構
金井 邦臣	東日本電信電話株式会社
鬼頭 英二	日本電気株式会社
鬼頭 孝嗣	KDDI株式会社
榮 浩三	株式会社NTTドコモ
鈴木 謙一	日本電信電話株式会社
陳 嵐	株式会社NTTドコモ
中川 章	株式会社富士通研究所
永沼 美保	日本電気株式会社
西本 修一	株式会社エフエム東京
八田 利弘	株式会社NTTデータ
渡辺 栄一	特定非営利活動法人BHNテレコム支援協議会
【奨励賞】	
阿部 元洋	株式会社NTTドコモ
市ヶ谷 敦郎 岩村 俊輔 根本 慎平	日本放送協会
市川 貢市	株式会社NTT東日本・南関東
岩谷 純一	日本電信電話株式会社
内野 徹	株式会社NTTドコモ
岡部 伸雄	元シャープ株式会社
尾原 誠明	KDDI株式会社
小林 中	日本電気株式会社
清水 智行	株式会社KDDI総合研究所
中川 真帆	富士通株式会社
根岸 聡	日本放送協会
原田 恵	日本電信電話株式会社
原田 浩樹	株式会社NTTドコモ
宮崎 真実	東日本電信電話株式会社
メロディ・インターナショナル株式会社	
山田 徹	日本電気株式会社

8.2.4 総務大臣賞・日本ITU協会賞一覧（受賞年別）

日本ITU協会賞 受賞者一覧(受賞年別)

https://www.ituaj.jp/?page_id=5960

平成30年度 -2018	総務大臣賞	井上友二				
	特別賞	マハビール・ブン				
	功績賞	今川眞治	岩田秀行	小川博世	金井邦臣	鬼頭英二
		鬼頭孝嗣	榮 浩三	鈴木謙一	陳 嵐	中川 章
		永沼美保	西本修一	八田利弘	渡辺栄一	
	奨励賞	阿部元洋	市ヶ谷敦郎・岩村俊輔・根本慎平		市川貢市	岩谷純一
		内野 徹	岡部伸雄	尾原誠明	小林 中	清水智行
		中川真帆	根岸 聡	原田 恵	原田浩樹	宮崎真実
		メロディ・インターナショナル株式会社			山田 徹	
平成29年度 -2017	総務大臣賞	水池健				
	特別賞	フェルナンド ビッテンコート				
	功績賞	安部田貞行	荒木則幸	浦野丈治	江川尚志	門林雄基
		木幡祐一	熊田純二	小島理代子	住田正臣	平良寛樹
		高橋謙三	高橋知彦	土橋康輔	中井博	中島和秀
		中村隆治	平山守	ベド プラサド カフレ		松尾一紀
		海底通信ケーブルプロジェクトチーム				
	奨励賞	石井守	植田由美	ウメシュ アニール		大槻芽美子
		日下部裕一	鈴木陽一	高谷和宏	武田和晃	津田健吾
		中北久雄	中山善博	成清善一	袴田佳孝	広瀬克昌
		松嶋孝明	三浦周	山上大	山岸和久	
		日本電気株式会社 T C I 事業部				
		NICT耐災害ICT標準化推進チーム				
平成28年度 -2016	総務大臣賞	橋本 明				
	特別賞	土井 美和子				
	特別功労賞	平田 康夫	松本 充司	吉野 武彦	フィッシュマン ゲイリー	
	功績賞	新 博行	大羽 巧	大村 好則	岡川 隆俊	小川 彰
		川田 亮一	後藤 良則	田島 公博	西永 望	山崎 高日子
	国際協力賞	「サウジアラビア キング・アブドゥルアズィーズ大学HPC」プロジェクト				
		DigiCon6 ASIAプロジェクト		上村 誠弘	染谷 勝	寺内 賢一
		長瀬 彰	眞野 正稔	丸山 芳樹		
	国際活動奨励賞	縣 亮	荒井 健二郎	井岡 紘子	石田 和人	ウリ A. ハプサリ
		大出 訓史	小田 祥一朗	カーン アシク	川西 哲也・久利 敏明	
	功績賞対象分野	河村 圭	戸毛 邦弘	中尾 彰宏	壬生 亮太	宮寺 好男
		藪崎 仁史				
	国際活動奨励賞	新採用国対応タスクフォース		金澤 智昭	佐賀山 健司	佐藤 信之
	国際協力賞対象分野	松岡 準志	安村 成彦			
平成27年度 -2015	総務大臣賞	小尾 敏夫				
	功績賞	太田 宏	酒澤 茂之	白木 和之	武智 秀	古川 憲志
		松永 彰	村上 誠			
	国際協力賞	アジア地域モバイルバックホール改良プロジェクト			内山 洋祐	桑原 正義
		古閑 次郎	小峠 忠義	坂野 寿和	高原 厚	戸田 弘
		無州 清				
	国際活動奨励賞	浅香 航太	一色 耕治	梅田 大將	衛藤 将史	門脇 真
		神原 浩平	田中 清	内藤 整	永田 聡	仲 信彦
	功績賞対象分野	長谷川 一知	福井 裕介			
		赤津 和彦	秋場 美奈子	川那 義則	田中 進	
平成26年度 -2014	総務大臣賞	村野 和雄				
	特別賞	滝川 クリステル				
	功績賞	荒木 正治	石川 禎典	河合 宣行	輿水 敬	
		ソフトバンクモバイル株式会社 電波伝搬標準化推進チーム				富田 茂
		本多 美雄	村川 一雄	横谷 哲也	渡辺 馨	
	国際協力賞	伊藤 義雄	梅澤 由起	NTTベトナム株式会社		瀬上 功一
		中村 英毅	野中 正晴	ミャンマー通信網緊急改善プロジェクト		
国際活動奨励賞		石樽 康雄	大槻 信也	大原 拓也	Suyong EUM	

	功績賞対象分野	数井 君彦	河村 高登	実井 仁	高野 祐美子	
		武智 洋	陳 嵐	辻 宏之	畑川 養幸	樋口 崇則
		Anand Raghawa PRASAD		巳之口 淳	村上 誉	山本 武志
	国際活動奨励賞	齋藤 秀俊	阪口 安司	福島 文枝		
国際協力賞対象分野						
平成25年度 -2013	総務大臣賞	津川 清一				
	特別賞	渡辺 利夫				
	功績賞	浅谷 耕一	菅原 正幸	高橋 玲	プラマニク カデル博	
		ブン チュンセン		間野 一則	宮地 悟史	向井 宏明
		HATS推進会議実施推進部会				
	国際協力賞	木村 俊一	小林 一之助	白井 明	高原 実	滝童内 裕
		外所 賢二	橋本 イスラムヌルール		藤井 浩	
	国際活動奨励賞	荒木 則幸	大久保 洋幸	久代 雄一郎	栗田 敏彦	小池 良典
	功績賞対象分野	千賀 渉	高橋 秀明	並河 治	西田 克利	浜田 リラ
		渡辺 聡一	姫野 秀雄	三浦 望	山影 朋夫	吉松 勇
国際活動奨励賞	伊藤 勇	北田 薫	小林 真弓	志村 直茂	本田 英昭	
国際協力賞対象分野	山中 敦之					
平成24年度 -2012	総務大臣賞	川角 靖彦				
	功績賞	和泉 俊勝	小坂 克彦	坂本 光弘	清水 勉	菅田 明則
		高田 政幸	中西 健治	広池 彰	三留 隆宏	森田 直孝
	国際協力賞	飯島 幸雄	岩田 秀行	大桃 善一郎	亀山 渉	佐竹 正博
		篠原 浩一郎	高島 武司	高橋 泰雄		
	国際活動奨励賞	朝倉 薫	有吉 正行	磯部 慎一	小川 博世	片桐 徹
	功績賞対象分野	門林 雄基	岸山 祥久	厚東 肇	近藤 芳展	関口 俊一
		高橋 健志	中島 和秀	松本 延孝	水谷 昌彦	村山 研一
		山本 秀樹				
	国際活動奨励賞	大沢 潤一	川井 正人	サンティアゴ ジェームス	友田 昌秀	
国際協力賞対象分野	西 卯助	吉見 智文				
平成23年度 -2011	総務大臣賞	佐賀 健二				
	特別功労賞	大久保 榮	長谷川 豊明			
	功績賞	大橋 正治	岡 誠一	櫻井 義人	中村 武宏	西田 幸博
		山崎 毅文	山田 秀昭	横山 伊仁		
	国際協力賞	石井 英光	植竹 國一	大場 一則	野村 正規	堀 智織
		松本 潤	中村 哲	室井 謙三		
	国際活動奨励賞	池田 哲	今田 諭志	岩村 幹生	折口 壮志	木全 英明
	功績賞対象分野	櫻井 暁	高橋 知彦	田中 威津馬	永沼 美保	藤井 智史
		星田 剛司	松原 大典	松原 雅美		
	国際活動奨励賞	牛山 和彦	宇高 衛	岡村 守	鈴木 浩	土淵 法明
国際協力賞対象分野	福家 直樹	古田 浩之	渡邊 敏英			
平成22年度 -2010	総務大臣賞	中西 洋夫				
	功績賞	東 充宏	白石 基	鈴木 宗良	高畑 文雄	田村 潤三
		坪井 利憲	中村 寛			
	国際協力賞	石井 誠一	緒方 惟孝	(財) 海外通信・放送コンサルティング協力		
		木村 光男	小林 喜代隆	星野 和弘	牧野 修	
	国際活動奨励賞	青木 秀一	大西 輝夫	岡本 淳	鍛 忠司	小暮 聡
	功績賞対象分野	小西 聡	白木 和之	谷川 和法	丹野 元博	栃尾 祐治
		端谷 隆文	林 通秋			
	国際活動奨励賞	池上 智仁	岩澤 正明	岩間 司	加藤 孝男	小島 理代子
	国際協力賞対象分野	鈴木 啓三郎	高田 政幸	鳥羽 孝一	中満 末夫	林 孝敏
松下 孝弟						
平成21年度 -2009	総務大臣賞	平松 幸男				
	功績賞	石部 和彦	今中 秀郎	川森 雅仁	小島 政夫	澤田 寛
		水谷 幹男				
	国際協力賞	石垣 英明	及川 政行	佐々木 良司	鈴木 周次	高田 守
		黒岩 博司	高橋 富士信	得本 恵一郎	山口 恒守	
	国際活動奨励賞	新 博行	石井 晋司	可児 淳一	ベド プラサド カフレ	
	功績賞対象分野	越塚 登	菅原 正幸	田村 利之	日和崎 祐介	三宅 優
向井 宏明		日本電信電話㈱ 環境エネルギー研究所 環境推進プロジェクト				

	国際活動奨励賞	伊藤 寧夫	大淵 隆平	金子 俊浩	小林 修	志鎌 昌宏
	国際協力賞対象分野	横野 孝司				
平成20年度 -2008	総務大臣賞	浦野 義頼				
	功績賞	伊藤 直人	岡田 忠信	小口 喜美夫	鋌吉 薫	新谷 正道
		森崎 孝行	吉野 仁			
	国際協力賞	岡部 嘉吉	黒田 由美子	合田 ノゾム	後藤 康裕	小松 正
		下井田 秀雄	伊達 新之輔	田中 憲次	中野 俊夫	
	国際活動奨励賞	江川 尚志	鎌谷 修	土田 健一	劔 琢己	富永 哲欣
	功績賞対象分野	仲道 耕二	新井田 統	本多 美雄		
	国際活動奨励賞	阿瀬見 宏	鶴木 健一	内山 洋祐	富保 諄一郎	野崎 誠一
国際協力賞対象分野	松永 健司					
平成19年度 -2007	功績賞	尾上 誠蔵	佐藤 明雄	中尾 康二	村上 龍郎	吉田 龍彦
		吉村 幸夫				
	国際活動奨励賞	安部田 貞行	大本 隆太郎	酒澤 茂之	佐藤 浩司	澤田 政宏
		高橋 徳雄	田島 勉	立岡 良夫	長津 尚英	中山 稔啓
		成田 篤信				
	国際協力賞	金子 文雄	櫛田 覚	倉林 和夫	千本 義隆	塚本 勝久
		平田 正幸	プラマニク カデル博		本多 慶成	
	国際協力奨励賞	飯田 武	上田 則明	梅澤 由起	杉本 勉	高山 寛次
	升澤 俊司					
平成18年度 -2006	特別功労賞	桑原 守二	若井 登			
	WSIS特別賞	久保 純子	道傳 愛子			
	功績賞	石田 良英	大石 雅寿	沖見 勝也	小山 敏	田中 三郎
		福田 英輔	前田 惟裕	渡辺 裕		
	国際活動奨励賞	磯部 義明	大堂 雅之	武智 秀	田村 基	藤川 就一
		古川 憲志	宮地 悟史			
	国際協力賞	伊東 善元	金子 進	樽松 八平	黒部 純一	下地 昇
		庄司 新一	長崎 靖夫	橋本 雅汎	三橋 英夫	
国際協力奨励賞	荒巻 修志	井上 由美江	牛坂 正信	染谷 勝	田中 健二	
	田中 秀實	福山 正文	溝上 徹	矢住 廣孝		
国際協力特別賞	小菅 敏夫	長谷川 靖子				
平成17年度 -2005	功績賞	江尻 正義	遠藤 静夫	大宮 知己	冲中 秀夫	小尾 敏夫
		小林 哲	山本 浩治			
	国際活動奨励賞	岩田 秀行	岸 洋司	輿水 敬	後藤 良則	佐藤 和助
		高橋 玲	中村 直義	本堂 恵利子	三留 隆宏	望月 健
		山田 秀昭				
	国際協力賞	足立 堯彦	出石 昌三	遠藤 兌	小林 正次	川畑 泰昭
		谷井 良臣	布施 誠	松雪 方雄		
	国際協力奨励賞	今川 眞治	古謝 保	末次 信圭	杉江 晶子	田中 秀樹
福岡 昭一		堀下 満海	三浦 周三	ムハマド アトハル サディック		
山木 賢蔵						
平成16年度 -2004	功績賞	阿部 宗男	伊原 昭男	小川 忠雄	小池 伸一	平松 幸男
		福地 一	薮崎 正実			
	国際活動奨励賞	浦野 丈治	ウン チャン ホク		川田 亮一	谷 直樹
		中川 仁	中村 武宏	丸山 秀幸	村上 伸一郎	
	国際協力賞	足立イフテカーレ・アムジャド		宇山 勝雄	大隅 旭	塩田 善昭
		中嶋 賢二	橋口 幸生	波多野 謙一	花井 孝	日比野 賢一
国際協力奨励賞	浅山 洋	植竹 国一	大矢 秀行	佐田 忠市	服部 衛彦	
	藤井 浩	前田 隆	村田 興一	山口 功	山口 順也	
平成15年度 -2003	功績賞	川角 靖彦	菊島 浩二	篠永 英之	津川 清一	中島 功
		松本 和良	三好 幸夫	山根 一雄	吉村 俊郎	
		NTTアクセスサービスシステム研究所 光アクセスシステムプロジェクト				
	国際活動奨励賞	泉田 史	大野 浩之	斉藤 知弘	塚田 晴史	中村 元
		松本 渉	横谷 哲也	吉野 仁		
	国際協力賞	梶川 秀二	加藤 徳郎	喜岡 清一	小杉 隆	中畑 雄二郎
		中村 安昭	平栗 要	山崎 尚男	渡辺 賢一	
	国際協力奨励賞	金井 邦臣	小林 喜代隆	佐藤 和雄	十蔵寺 寛	杉井 賢一
	滝童内 裕	田中 工文	田村 孝雄	中田 知義		

平成14年度 -2002	功績賞	岡村 治男	加藤 幹之	(故) 佐々木 秋穂		鈴木 太平	
		高杉 敏男	戸塚 良則	内藤 悠史	前田 洋一	松本 修一	
		松本 檀					
	国際活動奨励賞	池田 忍	大津 徹	大橋 正良	四宮 光文	趙 永国	
		中村 寛	日比 慶一	森山 繁樹	横田 史彦		
	国際協力賞	青木 隆雄	柏倉 宏幸	河野 洋三	城後 堅一	高橋 洋一	
		中田 静馬	西村 文雄	藤井 拓三	間瀬 和二郎	森屋 俣昌	
	国際協力奨励賞	阿部 秀貴	榎本 光夫	大井 雅雄	川出 健	木塚 透	
光桑野 廣男		上西 稔治	藤澤 英二	藤田 伸夫	古舘 幸治		
平成13年度 -2001	特別功労賞	大山 昇	矢橋 幸一				
	ユニバーサルアクセシ ビリティ賞	青木 詠	大蔵 智行	三浦 宏之	大嶋 雄三	大蔵 卓麻	
		釜本 美佐子	川越 利信	栗田 茂明	酒寄 哲也	佐川 浩彦	
		都木 徹	長谷川 貞夫	電気通信アクセス協議会		北鈴会	
	国際協力特別賞	KDDI株式会社／財団法人 KDDIエンジニアリング・アンド・コンサルティング					
		ソニー株式会社・ブロードバンドソリューションネットワークカンパニー・					
		B & Pカンパニービジネス企画推進部門・国際協力部					
		日本電信電話株式会社／東日本電信電話株式会社／西日本電信電話株式会社／					
		NTTコミュニケーションズ株式会社					
	功績賞	日本放送協会／(財)NHK放送研修センター					
		プノンペン一会					
		大久保 榮	正源 和義	ジョン レアリー		園城 博康	
		田草川 公人	中村 耕造	松本 充司	渡邊 文夫		
		国際活動奨励賞	石原 智宏	石部 和彦	城山 英明	武田 幸子	富田 茂
	西田 幸博		花原 克年	森田 直孝			
	国際協力賞	荒井 亮	内山 鈴夫	小幡 典男	柏 齊二	黒野 宗雄	
		薩摩 逸雄	田中 利興	橋本 秀夫	松岡 孝	迎山 秀也	
	国際協力奨励賞	荒古 邦彦	入江 雅通	岡田 実	富森 茂	長瀬 彰	
平山 守		宮崎 誠	森田 洋	矢後 良一			
平成12年度 -2000	功績賞	荒井 清実	浦野 義頼	立澤 加一	灰原 正	秦 正治	
		服部 光男	藤井 伸朗	松尾 一紀	宮沢 寛		
	国際活動奨励賞	太田 宏	黒田 徹	釧吉 薫	河野 宇博	鈴木 宗良	
		田村 俊之	村川 一雄	保田 佳之	吉村 隆之		
	国際協力賞	植木 俊雄	上野 重喜	海老沢 延雄	荻野 徹也	木本 正二	
		篠原 加行	大宮司 好文	中 勝司	花嶋 宏	和氣 鴻	
	国際協力奨励賞	大場 一則	菊村 一	串田 薫	相馬 宏	長江 靖行	
		山下 和起	横山 美紀男				
	平成11年度 -1999	特別賞	市原 博	緒方 研二	柏木 輝彦	原 昌三	山本 草二
		褒賞	秋山 稔	飯田 徳雄			
一般賞		石川 宏	近江 克郎	上瀬 千春	佐藤 孝平	津田 俊隆	
		新納 康彦	平川 秀治	山田 肇			
著作賞		須永 宏					
国際活動奨励賞		佐原 功治	津久井 聡一	杉山 武志	渡辺 馨	田中 宏和	
		清水 聡					
国際協力賞		井口 義勝	石島 照造	板橋 邦夫	大野 正太郎	工藤 哲郎	
		小林 建雄	佐藤 秀雄	澤田 郁	清水 直	中山 義秀	
	根本 則夫	故 牧野 満男					
国際協力奨励賞	内海 三郎	桃沢 英明	山口 恒守	吉田 峰雄			
平成10年度 -1998	一般賞	池田 佳和	北見 憲一	富田 修二	矢橋(古屋)隆	水池 健	
	著作賞	畠山 裕爾					
	国際活動奨励賞	加藤 久和	柴田 達雄	清水 勉	進藤 喜彦	藪崎 正実	
	国際協力賞	ISDN国際共同研究会		片倉 昇吾	佐藤 悦朗	杉浦 文雄	
		鈴木 廣雄	立澤 宏	野元 清	松本 道夫	嶺 仁	
平成9年度 -1997	一般賞	小野 欽司	川尻 轟大	熊田 純二	佐々木 秋穂	二木 實	
		藤岡 雅宣	松下 正彦	米澤 允克	関 祥行		
	国際協力賞	大野 寛	河野 朝次	駒形 郁雄	杉山 安一	豊田 暹	
平成8年度 -1996	特別賞	船橋 友一郎	山形 進	横山 義晴			
		大河原 良雄	澤村 吉克	新川 浩	平野 正雄	平山 温	
		(故)増田 元一	松田 英一				

	褒賞	清水 岩幸	玉木 久光	姫野 忠	宮崎 文夫	
	一般賞	浅谷 耕一 畑中 卓純	井伊 誓 坂東 正明	井手口 健 宮坂 栄一	小坂 克彦 村上 英世	清水 孝雄
	国際協力賞	阿部 久雄 杉浦 昂	岩清水 隆男 高木 完一	岸 政邦 宮城 崇	木下 守男 大和 馨	黒田 寿彦 吉田 伸夫
平成7年度 -1995	一般賞	永井 研二 三浦 信	中村 幸夫	橋本 明	古川 弘志	松平 恒和
	著作賞	平松 幸男				
	国際協力賞	(故)赤津 脩 佐野 英夫	歌代 功 庄司 正志	大羽 朋四郎 菅 波志女	小沢 斉	小林 彦造
平成6年度 -1994	一般賞	足立 邦彦	新井 彰	竹中 理	細矢 良雄	山田 幸
	著作賞	北脇 信彦				
	国際協力賞	石塚 春夫 国府 康昌	稲野 龍三郎 鈴木 敬久	潮田 巖 速水 昭三	大島 松太郎 深井 保	北原 福司
平成5年度 -1993	一般賞	岡部 恒雄 藤井 拓三	小畑 富宥	鈴木 幟	辻井 重男	二宮 佑一
	著作賞	松本 充司				
	国際協力賞	佐治 信男 藤井 義人	竹内 和雄 堀 成雄	坪井 俊雄 故 麦島正靖	故 西村 清	仁平 勝
平成4年度 -1992	一般賞	大瀧 泰郎 村野 和雄	大原 光雄 若井 登	北川 泰弘	瀬沼 義昌	橋本 了
	著作賞	河井 正彦	星 元雄			
	国際協力賞	安藤 元紀 高岡 博之	石田 守 野間 広	岡 馨 三宅 繁	乙部 和夫	木村 栄一
平成3年度 -1991	特別賞	児島 光雄 牧野 康夫	島 茂雄 宮 憲一	谷 恵吉郎	中山 次郎	藤木 榮
	褒賞	小島 武	高村 耐子	富永 英義	藤沢 絹子	
	一般賞	木本 正二	西澤 台次	平田 康夫	松原 正久	山下 孚
	著作賞	大久保 榮				
	WORC国際 協力賞	栗屋 淳 故 南 正明	植田 肇	甲斐 格	坪井 健治	藤原 雅一
平成2年度 -1990	特別賞	小林 宏治	佐藤 正二	(故) 八藤 東禧		
	一般賞	加納 貞彦	栗原 芳高	河本 太郎	村上 仁己	室谷 正芳
	著作賞	北見 憲一				
	WORC国際 協力賞	(故) 海老原 慎治 「Konichiwa」編集部一同		川上 淳之助 嶋村 正三郎	木村 勤 橋本 雅生	
平成元年度 -1989	一般賞	石野 文雄	伊藤 泰彦	古東 啓吾	鈴木 祥生	(故) 堀江 達
	著作賞	山口 秀夫				
昭和63年度 -1988	一般賞	浅古 幸一	池島 順一	西本 正	森島 展一	
	著作賞	小宮 菱一				
昭和62年度 -1987	一般賞	小山 森也	佐藤 龍夫			
	著作賞	佐藤 敏雄	野村 雅行			
昭和61年度 -1986	特別賞	網島 毅	(故) 古賀 逸策	下田 武三	長谷 慎一	林 一郎
	褒賞	石渡 進	川島 芳雄	長沢 拓也	牧 武男	
	一般賞	徳田 修造	山崎 泰弘			
	著作賞	細矢 良雄	柳町 昭夫			
昭和60年度 -1985	一般賞	磯崎 澄	川角 靖彦	守住 有信		
	著作賞	富田 修二	山田 松一			
昭和59年度 -1984	一般賞	加藤 満左夫	小林 好平	斎藤 利也	田中 真三郎	
昭和58年度 -1983	一般賞	栗木 富男	坂下 隆義	塚田 昌功		
	著作賞	山本 英雄				
昭和57年度 -1982	一般賞	岡部 年定	西澤 雄策	藤木 榮		
	著作賞	伊藤 士郎	加納 貞彦	村谷 拓郎		
昭和56年度 -1981	特別賞	難波 捷吾	花岡 薫	(故) 山岸 重孝		
	褒賞	藤岡 昌義	山本 徳太郎	日本アマチュア無線連盟		
	一般賞	伊藤 義三	寺村 浩一	平野 正雄	吉田 恵一	
	著作賞	寛 一彦				

昭和55年度 -1980	一般賞	泉 武博	笠原 豊	木村 義典	藤岡 昌義	
	著作賞	伊藤 英一	貝淵 俊二			
昭和54年度 -1979	特別賞	小松 繁	鈴木 恭一	本多 静雄		
	褒賞	島田 博一	野口 育彦	原 弘治		
	一般賞	稲野 龍三郎	鍛冶 弘	二条 弼基	沼口 安隆	
	著作賞	西澤 太郎	室谷 正芳			
昭和53年度 -1978	一般賞	阿部 英三	佐治 信男	平井 正一	山岡 元嗣	
	著作賞	井上 伸雄	太田 亨	新川 浩		
昭和52年度 -1977	一般賞	(故)有竹秀一	岡 修一郎	田所 康	塚田 壮平	
	著作賞	加藤 満左夫	桑原 守二			
昭和51年度 -1976	特別賞	穴澤 忠平	荒川 大太郎	飯野 毅夫	野村 義男	濱田 成徳
	褒賞	小口 文一	金子 仁	古里 正蔵	逓信博物館 事業課	
	一般賞	大内 三郎	北原 武男	新川 浩	西崎 太郎	矢口 栄一
	著作賞	岩橋 栄治	横井 寛			
昭和50年度 -1975	一般賞	京極 英二	牧野 康夫	森本 重武	横井 大六	
	著作賞	松下 操				
昭和49年度 -1974	一般賞	勝田 昌宏	小林 嘉雄	難波 捷吾	福井 謙三	松田 英一
	著作賞	木名瀬 亮				
昭和48年度 -1973	一般賞	(故) 阿部 璋	木下 正文	長谷 慎一		
	著作賞	安東 平一郎	池田 茂樹	島田 博一		

8.3 ITU歴代事務総局長

ITU Secretary-Generals (1869 to present)

<http://www.itu.int/en/history/Pages/PastAndPresentSecretariesGeneral.aspx>

Director

1.	Louis CURCHOD	Switzerland	1 January 1869 to 24 May 1872 and 23 February 1873 to 18 October 1889
2.	Charles LENDI	Switzerland	from 24 May 1872 to 12 January 1873
3.	Auguste FREY	Switzerland	from 25 February 1890 to 28 June 1890
4.	Timothie ROTHEN	Switzerland	from 25 November 1890 to 11 February 1897
5.	Emile FREY	Switzerland	from 11 March 1897 to 1 August 1921
6.	Henri ETIENNE	Switzerland	from 2 August 1921 to 16 December 1927
7.	Joseph RABER	Switzerland	from 1 February 1928 to 30 October 1934
8.	Franz von ERNST	Switzerland	from 1 January 1935 to 31 December 1949

Secretary-General

9.	Leon MULATIER	France	from 1 January 1950 to 31 December 1953
10.	Marco Aurelio ANDRADA	Argentina	from 1 January 1954 to 18 June 1958
11.	Gerald C. GROSS	United States	from 1 January 1960 to 29 October 1965
12.	Manohar Balaji SARWATE	India	from 30 October 1965 to 19 February 1967
13.	Mohamed Ezzedine MILI	Tunisia	from 20 February 1967 to 31 December 1982
14.	Richard E. BUTLER	Australia	from 1 January 1983 to 31 October 1989
15.	Pekka TARJANNE	Finland	from 1 November 1989 to 31 January 1999
16.	Yoshio UTSUMI	Japan	from 1 February 1999 to 31 December 2006
17.	Hamadoun TOURÉ	Mali	from 1 January 2007 to 31 December 2014
18.	Houlin Zhao	China	since 1 January 2015

8.4 ITU主要会議開催一覧表（1993年以降）

会 議 \ 年	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
全権委員会 PP:Plenipotentiary Conference		PP94 □ Kyoto				PP98 □ Minneapolis				PP02 □ Marrakesh
理事会 C:Council	C93 □ Geneva	C94 □ →	C95 □	C96 □	C97 □	C98 □	C99 □	C00 □	C01 □	C02 □
世界国際電気通信会議(WCIT) World Conferences on Inter- national Telecommunications										
世界無線通信会議 WRC:World Radiocommunication Conference	WRC93 □ Geneva		WRC95 □ Geneva		WRC97 □ Geneva			WRC00 □ Istanbul		
無線通信総会 RA:Radiocommunication Assembly	RA93 □ Geneva		RA95 □ Geneva		RA97 □ Geneva			RA00 □ Istanbul		
世界電気通信標準化会議・総会 WTSC/A:World Telecommunicatio Standardization Conference /Assembly	WTSC93 □ Helsinki			WTSC96 □ Geneva				WTS00 □ Montreal		
世界電気通信開発会議 WTDC:World Telecommunication Development Conference		WTDC94 □ Buenos Aires				WTDC98 □ Valetta				WTDC02 □ Istanbul
地域電気通信開発会議 RTDC:Regional Telecommunication Development Conference AF-RTDC:Africa RTDC AR-RTDC:Arabia RTDC AS-RTDC:Asia RTDC WTDC地域準備会合(Regional Preparatory Meeting)	AS-RTDC93 □ Singapore			AR-RTDC96 □ Beiret					RTDC □	
世界電気通信政策フォーラム WTPF:World Telecommunication Policy Forum				WTPF □ Geneva		WTPF □ Geneva				
World TELECOM WT:World TELECOM TI:TELECOM Interactive			WT95 □ Geneva		T197 □ Geneva		WT+T199 □ Geneva			WT03 □ Geneva
地域TELECOM AF-T:Africa TELECOM AM-T:America TELECOM AS-T:Asia TELECOM		AF-T94 □ Cairo				AF-T98 □ Johannesburg			AF-T01 □ Johannesburg	
				AM-T96 □ Rio de Janeiro			AM-T00 □ Rio de Janeiro			
	AS-T93 □ Singapore				AS-T97 □ Singapore			AS-T00 □ Hong Kong		AS-T02 □ Hong Kong

会 議 \ 年	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
全権委員会 PP:Plenipotentiary Conference				PP06 □ Antalya				PP10 □ Guadalajara		
理事会 C:Council	C03 □ Geneva	C04 □ →	C05 □	C06 □	C07 □	C08 □	C09 □	C10 □	C11 □	C12 □
世界国際電気通信会議(WCIT) World Conferences on Inter- national Telecommunications										WCIT12 □ Dubai
世界無線通信会議 WRC:World Radiocommunication Conference	WRC03 □ Geneva				WRC07 □ Geneva					WRC12 □ Geneva
地域無線通信会議 RRC:Regional Radiocommunication Conference		RRC04 □ Geneva		RRC06 □ Geneva						
無線通信総会 RA:Radiocommunication Assembly	RA03 □ Geneva				RA07 □ Geneva					RA12 □ Geneva
世界電気通信標準化会議・総会 WTSC/A:World Telecommunicatio Standardization Conference /Assembly		WTS04 □ Florianópolis				WTS08 □ Johannesburg				WTS12 □ Dubai
世界電気通信開発会議 WTDC:World Telecommunication Development Conference				WTD06 □ Doha				WTD10 □ Hyderabad		
地域電気通信開発会議 RTDC:Regional Telecommunication Development Conference AF-RTDC:Africa RTDC AR-RTDC:Arabia RTDC AS-RTDC:Asia RTDC WTDC地域準備会合(Regional Preparatory Meeting)				AS-RPM □ Hanoi (AS以外のRPMもほぼ同時期に開催)		AS-RPM □ Kuala Lumpur				
世界電気通信政策フォーラム WTPF:World Telecommunication Policy Forum							WTPF09 □ Lisbon			
世界情報通信サミット WSIS:World Summit on the Information Society	WSIS03 □ Geneva	WSIS05 □ Tunis	WSIS06 □ Geneva	WSIS07 □ →	WSIS08 □	WSIS09 □	WSIS10 □	WSIS11 □	WSIS12 □	
World TELECOM WT:World TELECOM	WT03 □ Geneva		WT06 □ Hong Kong				WT09 □ Geneva		WT11 □ Geneva	WT12 □ Dubai
地域TELECOM AF-T:Africa TELECOM AM-T:America TELECOM AS-T:Asia TELECOM AR-T:Arab TELECOM AE-T:Europe TELECOM	AF-T04 □ Cairo					AF-T08 □ Cairo				
			AM-T05 □ Salvador da Bahia					AM-T10 □ Buenos Aires		
			AS-T04 □ Busan			AS-T08 □ Bangkok				

年 会 議	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
全権委員会 PP:Plenipotentiary Conference		PP14 □ Busan				PP18 □ Dubai				
理事会 C:Council	C13 □ Geneva	C14 □ →	C15 □	C16 □	C17 □	C18 □	C19 □	C20 □	C21 □	C22 □
世界国際電気通信会議(WCIT) World Conferences on Inter- national Telecommunications										
世界無線通信会議 WRC:World Radiocommunication Conference 地域無線通信会議 RRC:Regional Radiocommunication Conference		WRC15 □ Geneva				WRC19 □ Sharm El-Sheikh				
無線通信総会 RA:Radiocommunication Assembly		RA15 □ Geneva				RA19 □ Sharm El-Sheikh				
世界電気通信標準化会議・総会 WTSC/A:World Telecommunicatio Standardization Conference /Assembly			WTS16 □ Yasmine Hammamet			WTS20 □				
世界電気通信開発会議 WTDC:World Telecommunication Development Conference		WTDC14 □ Dubai		WTDC17 □ Buenos Aires				WTDC21 □		
世界電気通信政策フォーラム WTPF:World Telecommunication Policy Forum		WTPF13 □ Geneva							WTPF21 □	
世界情報通信サミット WSIS:World Summit on the Information Society		WSIS13 □ Geneva	WSIS14 □ →	WSIS15 □	WSIS16 □	WSIS17 □	WSIS18 □	WSIS19 □		
テレコムワールド ITU Telecom World	WT13 □ Bangkok	WT14 □ Dubai	WT15 □ Budapest	WT16 □ Bangkok	WT17 □ Busan	WT18 □ Durban	WT19 □ Budapest	WT20 □	WT21 □	WT22 □